ＪＴＳＵ－Ｅ申第 26 号
２０２２年２月７日

東日本旅客鉄道株式会社
常務執行役員　新幹線統括本部長　池田　裕彦　殿

ＪＲ東日本輸送サービス労働組合
中央執行委員長　佐々木　宏充

新幹線床下フサギ板落失に関する申し入れ

２０２２年1月１３日1時ごろ、東北新幹線一関～水沢江刺駅間で、北上保線技術センター社員が総合巡視中に田茂山トンネル内の線間及び上り線側通路付近にへし曲った金属片を発見し拾得しました。翌日、新幹線車両の床下の一斉点検が指示され、盛岡新幹線車両センター青森派出所の仕業検査時にＥ５系Ｕ１０編成９号車の空調装置横の床下フサギ板が落失していることが発覚しました。また、当該車両の床下では、複数号車で多数のフサギ板のへこみや曲がり、ボルトの折損などが発見されています。

Ｅ５系フサギ板については、２０１２年度冬季に床下フサギ板の変形が多発し、さらに落失も発生したため、アルミ形在によるフサギ板の材質をＳＵＳに変更した対策品に改修を行っています。しかし、その後も、冬季においてフサギ板の曲がりやへこみなどは毎年多数発生し、現場からは情報発信を行っていました。一方で、ＪＲ西日本のＷ７系においては、着雪メカニズムから雪庇ダミーを設置することで台車周りの着雪を防止することの有効性が確認され、一部の車両に対して対策が取られています。ＪＲ東日本のＥ７系の現在新造されている一部車両にも設置がされていますが、Ｅ５系には設置されていません。

当該の部品は、重量が約１３．５kgもある重量物であり、高速運転中に落失したとすれば大事故につながることは容易に想像できることであり、いのちに関わることで重大な事象です。にもかかわらず、この事象については、プレス発表はおろか現場社員への周知すら行われず、未だ落失した原因については調査中となっています。

一方で、同日には郡山駅においてポイント不転換が発生し、大きな輸送障害が発生しました。このことから現場では、今回のフサギ板の落失の影響によってポイント不転換を引き起こしてしまったのではないかと疑念の声が出ています。

今後も、冬季には同様の事象が発生する恐れがあり、過去の教訓から学び速やかな対策・体制を構築し、新幹線の安全・安定輸送、ひいてはお客さまの命を守ることか私たちに課せられている使命です。よって、今回の事象に至った原因を詳細に明らかにし、迅速な対策を求めるものです。

したがって、下記のとおり申し入れを行いますので、労使間の取扱いに関する協約に準じ、団体交渉は信義誠実対等の原則に従い秩序を保ち平和裡に行うことに踏まえて丁寧かつ具体的に回答をすること及び速やかな労使交渉の開催を強く要請します。

記

1．新幹線床下フサギ板落失が発生した原因ならびに背後要因と対策を具体的に明らかにすること。また、同日発生した郡山駅ポイント不転換とフサギ板落失との因果関係を明らかにすること。

2．Ｅ５系新幹線台車周辺に着雪しにくい構造とするように、Ｅ７系新造車両同様の雪庇ダミーを設置すること。

3．冬季対策として雪害時における要員ならびに予備品等の配置体制の見直しを行うこと。

4．お客さまや地域の皆さまから期待されている「安全」という「変わらぬ使命」を果たすためにＣＳＲ（企業の社会的責任）として情報開示を速やかに行うこと。

以　上